

人権だより

No.286(2021.12)

「ワイルド・スピード」に学ぶ人種の多様性

保健環境部課長・宮本 万理子

皆さんは「ワイルド・スピード」シリーズを観たことがあるでしょうか。映画館で観たことがあるという人、金曜日ロードショーなどで観たことがあるという人もいないでしょうか。2021年には10作品目が公開されたワイルド・スピードシリーズは、2001年から20年間にわたってシリーズ化されており、ド派手なカーアクション映画としてよく知られています。また、その一方でこのシリーズは、ハリウッド映画の中でも特に非常に多様な人種で構成されており、それがシリーズの大きな魅力にもなっています。



シリーズの中心であるウィン・ディーゼル演じるドミニク・トレットは正確な人種が不明ですし、その他の登場人物も黒人系や韓国系アメリカ人、白人系、サモアと黒人のバイレイシャル(二重人種)、中南米系など様々です。彼らのような多様な人種が「ファミリー」として活躍する、とてもユニークな映画です。

この作品は、世界中の誰もが身近に感じられる多種多様な登場人物たちがスクリーンで大暴れし、また物語の最後にはいつも皆で一緒にお祈りをして食事をします。ワイルド・スピードは、どのような人種であっても、ヒーローのような活躍をすることもできるし、人種に関係なく絆を紡ぎ、互いに分かり合うことができることも教えてくれる映画だと思えます。2016年には「白すぎるオスカー」が問題視されたこともあるように、多くのハリウッド作品が出演者を白人に偏らせているものが多い中で、多種多様な人種がキャストイングされており、世界中の様々な人々に夢と希望を与えてくれる作品になっているのではないのでしょうか。

日本においても人種差別は決して例外や他人事ではありません。グローバル化が進む昨今の日本において、人種差別の問題は特に重要となります。人種、言葉、文化、考え方が違うからと区別や排斥をしてしまえば、世界全体で生きていくことはできません。言葉や文化、宗教、思想などは生まれてきた環境で違いが生まれ、それらは自由で

(裏面に続く)

あり、お互いに受け入れ、認め合うべきものなのです。世界中で様々な取組が進んでいますが、今でも人種差別に傷つき、苦しむ人はいます。そのような人を助けるため、あるいは私たち自身が差別される側の立場になりうることも考え、人種差別を断ち切ることができると考え、行動をしていきましょう。

【人権委員の声】

・私は、「ワイルド・スピード」という映画を初めて知りました。人種差別が問題となっている今、このように多様な人種が一つの映画で活躍するというのは、人種差別を断ち切るためにも、とてもいい発想だなと思いました。映画やドラマは、見る人を楽しませるだけでなく、時には大切なことを伝えてくれるので、いろんな作品を見て、たくさんのことを学べたらいいなと思いました。

(2年 二宮 萌)

・私は「ワイルド・スピード」が好きで、よく見ますが、こういったことについては知りませんでした。差別はなくしていきたいですが、違いをなくすのではなく、違いを認め合うということが大切なのだと、改めて考えさせられました。

(4年 三浦 野乃花)

・日本は島国なので、私たちは人種が違ったり文化が異なる人々と接する機会がありません。しかも現在はコロナ禍であり、海外の人と触れ合う機会がさらに減ってきているように思います。しかし、こういうときだからこそ、自分から異文化を理解しようとする姿勢が大切だと思います。

(5年 福本 漣)

・世界的に多様化が叫ばれている中で、「ワイルド・スピード」のように、多様な人種がキャストイングされていることは素晴らしいと思いました。互いの違う部分を受け入れ、認め合うべきだと改めて感じます。私たちも、多様性について理解を深める努力をする必要性を感じました。

(6年 船田 悠斗)

【保護者の声】 PTA 人権委員の方の感想です。

・海外で活躍する日本人もいれば、日本で活躍する外国人もいます。言葉が通じなくても、考え方が違って、「相手のことを知りたい」気持ちがあれば、通じ合うことができると思います。同じ国の人も考え方が異なることがありますし、逆に、違う国の人と考え方が合うこともあります。人種や言葉や考え方が違って、皆同じ人類です。人種などで偏見をもつことなく相手と接し、「その人らしさ」を知ることが大切なのだと私は考えます。

(1年生保護者)

・日々の生活の中で自分は差別しているつもりがなくても、相手が人種差別を感じてしまう事、相手を深く傷つけてしまう事があると思います。人を傷つけてしまうことのないように、自分の発言の重みを意識し、相手を思う気持ちを大切にしながら、人との関わりを持たなければと思います。

(2年生保護者)

・「ワイルド・スピード」。金曜ロードショーで我が子たちが毎回観ている作品です。“多種多様な人種が活躍し、世界中の様々な人々に夢と希望を与えてくれる作品”として観ているかということ、実際はカーアクションを楽しんでいるだけかなと感じています。ということで、次回の放送時には、多様な人種の共存という観点から作品を見て、人種差別について一緒に考えてみようと思います。

(3年生保護者)